

# くまがいSDGs研究推進事業

## 災害時脆弱性がある人々の強靱性(レジリエンス)を構築する 防災プログラムの開発

**概要:** 障害者施設や児童施設のカーボンニュートラルに配慮したBCP(事業継続計画)の策定や熊本地震被災者の受診控え調査やバーンアウトが懸念される保健師のメンタルヘルス支援プログラムの開発を通して、災害時に脆弱性がある人々のレジリエンスを構築するプログラムを開発する

**目的:** 災害時に取り残されやすい障害者、貧困者、保健師の災害への適応性(レジリエンス)を構築する防災プログラムを策定するための基礎的調査やモデル事業を行い、インクルーシブな国土強靱化に貢献し、カーボンニュートラルを達成する

### 目的とする SDGs のゴール

- 1、貧困をなくそう✓
- 3、すべての人に健康と福祉を✓
- 11、住み続けられるまちづくりを✓
- 13、気候変動に具体的な対策を✓



<https://jordanjapan.co.jp/products/green-clean/>

#### 研究総括

担当：大河内 彩子

保健学教育部  
教授

#### カーボンニュートラル なBCP策定

担当：岡田 行雄  
船山 ひろみ

法学部教授  
鶴見大学歯学部講師

#### 被災者の受診控えの ビッグデータ分析

担当：吉永 尚紀

宮崎大学医学部看護  
学科教授

#### メンタルヘルス教育プ ログラム

担当：高岸 幸弘

人文社会科学部  
准教授

**期待される効果・成果:** 本研究はカーボンニュートラル歯ブラシを用いた健康教育と機能評価を通して、小規模施設でもSDGsに貢献するBCP策定を行う。また、熊本地震被災者という既に痛手を被っている人々がコロナ禍により新たな打撃を受け、受診控えを行っている可能性がある。被災者の健康悪化を予防する施策を立案するための基礎的資料を得ることができる。最後に、熊本地震では自ら被災しながら支援を行った保健師はコロナ禍の業務負担によりさらにメンタルヘルスが悪化している。しかし、保健師のメンタルヘルス支援のエビデンスは少ない。本研究は保健師のストレスマネジメントプログラムを開発する。これらにより、障害者や被災者や保健師という災害時脆弱性がある人々の適応力(レジリエンス)を醸成する。

**研究計画:** 当該研究の意義・内容は、福祉施設のカーボンニュートラルに配慮したBCP策定や被災者のレセプトのビッグデータ分析や保健師のアンガーマネジメント支援プログラムを通して、災害時に取り残されやすい人々の課題分析と支援法開発を行うことである。研究時期は令和4年9月-令和5年3月である。BCP策定の研修を行い、SDGsとBCPの関連を講義する。そして、カーボンニュートラル歯ブラシを用いた児童養護施設入居者による機能評価を実施し、この歯ブラシをBCPに用いる根拠を検証する。熊本は子どものう蝕保有率が全国ワースト1であり、機能検証と健康教育を同時に行う。次に、熊本市より熊本地震被災者の匿名加工データを入手し、レセプトのビッグデータ分析から受診控えの実態を明らかにする。最後に、熊本市保健師の精神健康をK6を用いて評価し、遠隔心理支援プログラムを開発する。